

contents

ジェトロ山口

青島派遣レポート

YMFGアジアニュース

発行 (一財) 山口県国際総合センター

日本貿易振興機構(ジェトロ) 山口貿易情報センター

内容についてご意見、ご質問があれば、下記までお問い合わせ下さい。

(一財) 山口県国際総合センター

山口県下関市豊前田町3-3-1

TEL083(231)5778 FAX083(231)5787

メッセ海外通信 INTERNATIONAL NEWS KAIKYO MESSE SHIMONOSEKI

(一財) 山口県国際総合センター・日本貿易振興機構(ジェトロ)山口貿易情報センター

MESSE

親日国インド～政治・歴史・宗教からひも解く～

「？」「??」「???」「筆者は〇〇!？」・・・)。ほとんどの方は「親日国インド」に対し左記のような反応ではないでしょうか(笑)。歴史が大好きな筆者もインド駐在前は少なくとも「??」でした。我々日本人は、インド人との付き合いがなくても、インドは「仏教」「カレー」などを思い浮かべますが、インドの日本に対する政治・歴史的な親日や宗教上の共通点などのほとんどが「??」ではないでしょうか。

本稿では、インド連邦下院議会が毎年同じ日に黙とう、日本に寄贈された象などの命名の経緯や意味など、我々多くの日本人が知らないこと(筆者がインド駐在前に知らなかったことなど)を共有させていただくことで、少しでも多くの方にインドのことをより身近に感じていただければと思います。

■下院議会による黙とう、首脳往来など

日本にとって8月6日と8月9日は何の日でしょうか？ほとんどの方は「広島と長崎への原爆投下」が思いつくでしょう。一方、両日の出来事を知識として覚えていても、黙とうや思いを寄せる方は、被ばく者や関係者以外は多くはないのではないのでしょうか。そのような中、インド連邦下院議会は、広島と長崎での原爆犠牲者を追悼するため、毎年8月6日に黙とうしています。昨年8月6日は、オム・ビルラ下院議長が黙とうに先立ち、議場で「インド連邦下院議会は原爆の被害を受けた日本の人々を追悼するため、黙とうを捧げる。」などと述べました。在インド日本国大使館によると、インド連邦下院議会は、1985 年から毎年この時期にこうした慣行を続けているとのこと*1。

日本とインド間の首脳往来は、直近では2025年8月29日から30日までのモディ首相による来日です*2。その前が2023年9月8日から10日までの岸田首相(当時。以下同)によるG20ニューデリー・サミットに出席のための訪印*3、同5月20日から21日までのモディ首相の広島訪問(G7広島サミット出席)*4、同3月19日から21日までの岸田首相による訪印*5、などと続きます。これらの両国間首脳往来のうち、筆者にとって特に印象的なことを皆様に3点共有させていただきます。

1点目は、平和記念公園(広島市)に設置されているマハトマ・ガンディの胸像です。同胸像は、前述の2023年5月20日のモディ首相によるG7広島サミット出席を記念し、インドから友好と親善の証として贈呈、モディ首相出席のもとで除幕されました。同胸像には「マハトマ・ガンディは、インド国家の父とされ、真理と非暴力の価値観の実践に生涯を捧げました」などと記述されています。インドにとって象徴的な存在でもあるガンディの胸像がモディ首相出席のもとで贈呈・除幕されたことは、インドから日本への強い思いが伺えます。

筆者はガンディ胸像を撮影した日に同公園内にある広島平和記念資料館も訪問しました。同館によれば「(同館には国・地域別の来館者数の統計がないものの)インドからの来館者数が以前よりも増加している」とのことでした。ま



筆者が2026年3月28日に平和記念公園で撮影。胸像から向かって左横側に日本語・英語・ヒンディ語で贈呈の経緯と目的が記述

た、前述のガンディ胸像もインド人観光客の訪問スポットの1つになっているとのことでした。

筆者は、当日もインドからのツアー客が同館入り口に並んでいるのを見ましたし、筆者の同僚によれば、今年4月の東京駅からの帰路の新幹線内で少なくとも35名のインド人が同じ車両に乗り込んでいることを確認、全員が広島駅で下車したとのことでした。日本政府観光局（JNTO）によれば、2025年1月から12月までの訪日外国人約4,268万人（暫定値）のうち、インドからが同31万5,000人と全体のわずかに0.7%ですが、前年比では全体15.8%増に対しインドは35.2%増と全体平均の2倍以上の大幅増になりました*6。

2点目は、岸田首相が2023年3月19日から21日までインドを訪問した際、モディ首相から日印友好の証としてインドボダイジュの苗木が贈呈されたことです。同苗木は、広島市植物公園で同5月23日から5月31日まで同園内の大温室ロビーで展示され、その後は、定植するのに十分な大きさに成長するまで、栽培場（一般非公開）で管理されているとのことでした*7。

筆者はこの苗木の現状が気になり、今年5月に同園を訪問したところ、確認できました。



筆者が2026年5月6日に撮影。同園によれば、受入時の3倍ほどの大きさに成長しているとのことでした（ピンク色の花などは別の鉢植えです）

ちなみに、仏教開祖者のシャカ（釈迦）は、インド（ベンガル）ボダイジュ（菩提樹）のもとで悟りを開いたとされています。このため、ボダイジュは聖樹ともされ、精神安定や厄除け

などのパワーもあるとされています。

3点目は、インド・ネール首相（当時。以下同）による1957年10月9日の広島訪問です。被爆から12年と2ヶ月、外国首脳による初めての広島訪問でした。ネール首相は、平和記念公園での歓迎集会に参加した約3万人の聴衆に対し演説、「我々は回答を求められている。再び原水爆を使って人類を破滅させるか、愛と仏の教え、慈悲の精神による世界をつくるのか。」などと訴えました。このことは、復興途上の広島市民にとって大きな励みとなったようです。ネール首相の広島訪問を記念し平和記念公園内に植樹されたヒマラヤスギが、現在でも威厳高く同園内に存在しています。ヒマラヤスギは、ヒンドゥー教（2011年インド国政調査でインド国民の79.8%がヒンドゥー教徒）で聖なる木として崇拝され、古代インドの賢者がこの木のもとで瞑想し、神に祈りを捧げたと伝えられています。

*1在インド日本国大使館「インド下院による原爆被害者への追悼」（2025年8月6日）

*2在インド日本国大使館「インド・モディ首相の訪日」（2025年8月30日）

*3在インド日本国大使館「日印首脳会談」（2025年9月9日）

*4在インド日本国大使館「日印首脳会談」（2023年5月20日）

*5在インド日本国大使館「岸田総理大臣のインド訪問」（2023年3月20日）

*6日本政府観光局（JNTO）「2025年訪日外客数（総数）」（2026年1月21日）

*7広島市植物公園ブログ「日印友好のインドボダイジュをいただきました」（2023年5月17日）



筆者が2026年5月4日に撮影

■日本への思いが伝わるインド象の命名

終戦から間もない4年後の1949年10月にインディラと名付けられた象がネール首相から吉田首相（当時。以下同）に贈呈されました。同年5月に東京台東区の子供議会の「上野動物園に象を」との決議に日本の国会が動き、子供たちのネール首相あての手紙が届けられました。ネール首相はこの子供たちの手紙に感激し、贈呈する象を娘（後のインディラ・ガンディ首相）と同じ名前のインディラと命名しました。贈呈式には吉田首相をはじめ、約5万人が集まったとされています。その後、ネール首相の後を継いだインディラ・ガンディ首相（当時）は、1983年8月に象のインディラが死去したことを受け、1984年9月にアーシャ（希望）とダヤー（慈悲）と命名した象2頭を上野動物園に送りました。さらに2001年4月、フェルナンデス国防大臣（当時）からスーリア（太陽）と命名された象が上野動物園に送られました。当時の日本は「失われた10年」と言われていました。日本は、戦後復興から1989年まで、石油ショックなどの一時的な経済不況を複数回経験しましたが、それらを乗り越えてきました。しかし、1990年の「バブル崩壊」から経済が本格的には回復せず、日本の政財界関係者の中には自信喪失状態になった方もいたようです。このような中で、ヒンドゥー教の太陽神・スーリア、「日出づる国・日本」にもちなんだ象への命名に対

し、当時インド・ニューデリーに駐在していた筆者を含むインド在住の日本人の多くが感激したことを今でも鮮明に覚えています。

■戦後直後の2つの「親日的」出来事

日本の近現代史が好き、関心がある方の中には、1946年5月に開廷され、1948年11月に判決が下された極東国際軍事裁判で、11名の判事の中で唯一「平和に対する罪」「人道に対する罪」について全員無罪を主張した判事が、インド出身のパール判事（当時。以下同）だったことをご存知でしょう。筆者もインド駐在前からこのことを知り、インドに尊敬の念を抱いていました。前述の2つの「罪」は事後法のため、刑法の大原則では遡及適用されないことになっています。ちなみに、2007年8月に安部首相（当時）が訪印、インド国会での演説では「明日私は、朝の便でコルカタへ向かいます。ラダビノード・パール（Radhabinod Pal）判事のご子息に、お目にかかることとなるでしょう。極東国際軍事裁判で気高い勇気を示されたパール判事は、たくさんの日本人から今も変わらぬ尊敬を集めているのです。」などと述べました*8。

また、日本の戦後復興に必要な鉄鉱石をいち早く日本に輸出したのもインドでした。確証はありませんが、某国が日本への鉄鉱石輸出を断ったことを知ったインドが、日本に鉄鉱石を輸出したということを少なからず耳にしたことがあります。

■ヒンドゥー教の神々と仏教との関係

在インド日本国大使館によれば、2011年のインド国政調査では、前述のとおりヒンドゥー教徒79.8%、続いてイスラム教徒14.2%、キリスト教徒2.3%、シク教徒1.7%、仏教徒0.7%、ジャイナ教徒0.4%、とされています*9。仏教発祥の国・インドで仏教徒がわずか0.7%なのは、多くの方には意外だったと思います。ヒンドゥー教、シク教、仏教およびジャイナ教は、

バラモン教の後継になります。このため、仏教にはヒンドゥー教由来の神々が存在します。ヒンドゥー教由来の神々は、例えば、如来などを守る四天王（多聞天（毘沙門天）など）や弁財（才）天など多数あります。また、ブッダは、ヒンドゥー教では宇宙を維持・管理するヴィシュヌ神（宇宙の創造はブラウマ神、破壊と新たな創造はシヴァ神）の化身とされています。歴史的にも奈良時代に聖武天皇が東大寺を建立、752年の開眼供養で導師を務めたのがインド出身で唐に滞在中だった菩提僊那（ホーディ・セーナ）でした。皆様も観光や年末年始でお寺に行かれることがあるかと思いますが、安置されている神々の鑑賞もいかがでしょうか。



別府弁天地（美祢市）。配偶者が2026年2月21日に撮影



中津溪谷県立公園（高知県吾川郡仁淀川町）。七福神が安置。写真は弁財（才）天。筆者が2026年5月6日に撮影

■まとめ

「親日国インド」について、政治・歴史・宗教の観点からひも解いてみましたが、いかがでしたでしょうか。インド下院による黙とう、両国首脳往来とインド首相からの贈り物や記念品、インドからの象寄贈と命名、仏教とヒンドゥー教の関係などを共有させていただきましたが、少しでもインドを身近に感じていただけましたらと思います。

筆者は、インド駐在（2000年11月下旬から2006年3月下旬まで）前は、先述のとおり、極東国際軍事裁判でのパール判事のことは知っていましたが、今回執筆した他のことを全く知りませんでした。ちなみに、筆者の出身大学のゼミ（ドイツ近代史）仲間が、筆者のニューデリー赴任前に送別会を開催してくれた際に「インドに遊びに来てよ」と言ったところ、「インドは遠いよね」と返されました。ゼミ仲間は、日本からは距離的にインドより遠いドイツなどに留学経験があるのにも関わらずです。そのことを指摘したところ、「言われてみたらそうだね」と返されましたが、このことは、多くの日本人にとってインドは、心理的に遠いのだなと感じました。

なお、インドの経済やビジネス面に関して知りたい方は、ジェトロのホームページ^{*10}からご確認いただけますので、是非、ご利用ください。

（TEL:083-231-5022）

（まとめ：ジェトロ山口 藤井）

^{*8}在インド日本国大使館「インド国会における安部総理大臣演説」（2007年8月22日）

^{*9}在インド日本国大使館「インド共和国（Republic of India）基礎データ」（2026年2月18日）

^{*10}ジェトロホームページ（インドーアジア ー 国・地域別に見るージェトロ）

青島派遣レポート

下関市市長公室国際課
(青島市派遣職員)

山 野 柚 香

【崂山の水が支える青島の代表的な飲料】

皆様こんにちは、中国青島市派遣職員の山野です。

中国山東省にある青島市には、海に面してそびえる崂山があります。崂山は標高1,132.7m全体面積446km²で、道教の発祥地の一つとしても知られています。美しい自然景観に恵まれており、中国国内の観光地評価最高位である国家5A級景勝区に指定されています。春には花見やサクランボ狩り、夏には避暑地として、秋には紅葉、冬には樹氷や氷瀑の景色を楽しむことができるため、年間を通じて多くの観光客が訪れています。

また崂山は豊富な水資源に恵まれており、青島市にとって非常に重要な水源地でもあります。今回は崂山の良質な水を利用して生まれた飲料である崂山鉱水、青島ビール、崂山コーラについて紹介します。



まず1900年に誕生した崂山鉱水は中国国内でも知名度の高い天然水ブランドの一つであり、崂山の地下から採取された水を使用しています。1930年代からは大量輸出が始まり、現在では30以上の国と地域に輸出されています。崂山は花崗岩地質であるため、ミネラルを適度に含んだ水が生まれます。青島市内のホテルや会議場ではよく崂山崂泉水が提供されています。

青島ビールは1903年に誕生しました。当時の青島はドイツが租借しており、ドイツの投資家や入植者たちによってビール工場が設立されました。水質が良くビール醸造に適した崂山の湧き水に目をつけ、本格的なドイツスタイルのビールを醸造し始めたと言われています。崂山の水は雑味が少ないため、麦芽やホップの風味を引き立てるビール造りに適しており、青島ビールのすっきりとした味わいを生み出す重要な要因となりました。青島の英語表記「Qingdao」なのですが、青島ビールのラベルには「Tsingtao」と記載されています。これはドイツ語ベースの綴り（Tsingtao）が定着し、現在もそのままブランド名として使用されているからだそうです。

現在、青島ビールは中国を代表するビールブランドとして世界各国に輸出されており、青島の地域ブランドを象徴する存在となっています。また青島市内には青島ビール博物館があり、青島ビールの歴史や製造方法を学ぶことができます。見学した後は青島ビールを試飲することができます。

崂山コーラは1953年に誕生しました。1990年代国外のコーラブランド参入により一時は生産が停止されましたが、2004年青島崂山崂泉水有限公司が崂山コーラの商標を取り戻し、生産を再開しました。

一般的なコーラとは異なり、漢方のような香りを持つのが特徴です。黒棗、クローブ、高良姜などの薬草を配合していることから、健康志向の飲料としても知られています。また販売されている種類も豊富で、配合する薬草を変えたものや、ゼロシュガーの商品も販売されています。

崂山は自然景観や観光資源だけではなく、青島の経済や商業活動とも深く結びついています。豊かな水資源が地域ブランドの基盤となり、商品を通じて国内外に広く知られるようになりました。崂山の豊かな水源は、自然と産業、そして地域ブランドを結びつける象徴的な存在であり、青島の発展を支える重要な資源と言えるでしょう。青島にお越しの際は是非味わってみてください。



@青島崂山崂泉水有限公司公式HP



@青島ビール公式HP

【参考】

青島崂山崂泉水有限公司 <https://www.laoshan.com.cn/about.html>

青島崂山風景区 <https://qdlaoshan.cn/Index-laoshan.html>

青島ビール博物館 <https://www.tsingtaomuseum.com/category/1773519016732667906>

青島啤酒官方网站 <https://www.tsingtao.com.cn/index.html> ※音楽が流れます

YMFGアジアニュース

山口銀行大連支店
江 目 敬 祐

中国でのビジネス展開（販路拡大・製造委託先探索）を開始する方法と駐在員がお手伝いできること

1. 大連の現状について

大連のGDPは、1990年代から2025年にかけて大きく成長しました。2025年には中国東北3省の都市で初めて1兆元（約23兆円）の大台を突破し、「兆元クラブ」入りを果たしました。主に製造業を中心とした第2次産業が成長を牽引し、1990年と2025年を比べると金額ベースで約52倍になっています。中でも造船業が好調で、日中合弁の大連中遠海運川崎船舶工程有限公司や日本独資の大連今岡船務工程有限公司、最近では2022年7月に新規参入した中国資本の恒力重工集团有限公司が新興勢力として注目されており、中国における重要な製造拠点となっています。

2. 大連の魅力

次に大連の魅力ですが、以下の3つのポイントが挙げられます。

①地理的なメリット

中国本土の主要都市の中で地理的に日本に最も近い場所の一つであり、また、大連港は東北アジアの国際航路のハブとして重要な役割を果たしています。

②経済的なつながり

瀋陽税関の調査によると、遼寧省における2024年の最大貿易相手国（輸出）は日本となっています。また、在大連日系企業数は2024年時点で1,680社とピーク時の1,892社（2019年）に比べると減少しているものの、中国国内では上海に次いで2番目に多い都市であり、経済的なつながりが強いです。

③暮らしやすさ

大連は、中国国内でも有数の親日エリアとして知られています。「日本語能力試験」のWEBサイトや日本貿易振興機構（以下：JETRO）の調査によると、2024年の大連における日本語能力試験N1の受験者数は4,925名に上り、人口100万人あたりの受験者数（653名）の割合は都市別で最大となりました。また、大連には日本語学部を有する大学が18校（大連にある大学の約6割）あり、日本語の教育環境が充実しています。日本人になじみ深く、他の都市より日本人を受け入れる素地があることが、暮らしやすさにつながっています。

3. 大連ビジネスのチャレンジ

それでは、大連ビジネスを検討するにあたり、過去の支援実績や当地で参加可能なイベント等について、以下に取り上げます。

【過去の支援実績】

①販路開拓

大連にある百貨店や小売店に日本産の食品や酒類を紹介し、事前に商品規格書やサンプル（可能な場合）を準備した上で、オンラインでの商談を実施しました。現在はビザなし渡航が可能ですので、現地での直接商談も可能です。実際に現地を訪れ、販売状況を確認することで、市場調査にも役立ちます。最近ではヘルスケア、介護・福祉分野の商材に対する関心が高まっています。

②製造委託先探索

建築資材や造船部品等の製造委託先について、中国国際貿易促進委員会や大連市中日経済合作交流協会等に探索を依頼し、対象企業を紹介しました。図面等の情報を提供し、見積りやサンプル製作の依頼ができます。

【当地で参加可能なイベント】

①JETROイベント

昨年6月、JETROは国税庁と共同で日本産酒類商談会を開催しました。日本の酒造会社や商社、現地代理店を含む42社が参加し、大連で開催されたイベントとしては過去最大規模となりました。大連を中心とするディストリビューター、飲食店、小売店等から約200社が来場しました。中国では、多様な商品を求める若年層が増えており、アルコール度数の低い酒類へのニーズも高まっていることから、今後も日本産品を取り巻く中国の市場動向を把握しながら、日本企業とのマッチングを支援していく方針ということです。

②交易広場（Exchange Square）で開催予定の展示会

2026年夏頃、交易広場（Exchange Square、オフィス兼商業ビル）において、Dalian Japan“Michino-Eki”Encyclopediaと題した日本産品の魅力を紹介する展示会が検討されています。「日本産品の魅力を一冊の図鑑のように」をコンセプトにした新たな取り組みとして期待されています。なお、出展にかかる申込み手続き等は今後決定する予定です。

【筆者撮影】開催候補地

4. おわりに

大連に限らず、日本企業が中国でビジネスを始める際にスモールスタートは極めて有効な戦略となります。試験的に少額の取引から始めることで、代金回収リスクや品質トラブルを最小限に抑えられます。

また、中国ビジネスでは「人と人との関係」を重視すると言われています。少額の取引を通じて、中国企業の対応、意思決定プロセス、経営者の人間性等を見極めながら、信頼関係を構築していくことが重要になります。中国の都市の中でも特に大連という地域は、歴史的にも地理的にも中国ビジネスを検討する際の足掛かりとして非常に適した場所です。

山口フィナンシャルグループでは、中国に関するさまざまなご相談を承っておりますので、ご興味のあるお客様はお気軽にお取引店までお問い合わせください。

（山口銀行大連支店 岡田 将）



【参考文献】

- ・ はま寿司進出にかかる中国メディア記事
<https://baike.baidu.com/item/%E6%BB%A8%E5%AF%BF%E5%8F%B8/67212144>
- ・ GDP 聚会データ（大連市統計局）HP
<https://m.gotohui.com/gdp/show-282158>
http://big5.china.com.cn/gate/big5/news.china.com.cn/2026-01/26/content_118299279.shtml
<https://m.jiemian.com/article/13958355.html>
https://www.ceh.com.cn/ep_m/ceh/html/2026/01/27/01/01_56.htm
- ・ 外務省HP
日系企業進出数
https://www.mofa.go.jp/mofaj/ecm/ec/page22_003410.html
- ・ 日本語能力試験HP
<https://www.jlpt.jp/statics/archeive/202501.html>
- ・ 日本貿易振興機構HP
日本産酒類商談会実施レポート
<https://www.jetro.go.jp/biznews/2025/07/64c68d8e4c5a96d4.html>
- ・ 日本貿易振興機構大連事務所
東北3省の概況（2026年3月）